

# 極早生新品種「なつひめ」の生育状況と今後の管理について

令和8年6月22日  
新潟県農林水産部

- ◎ これまでの高温により、5月上旬までに植えたほ場では、既に幼穂形成期となっていると見込まれます。
- ◎ 収量を確保するため、幼穂形成期になったら直ちに1回目の穂肥\*を施用しましょう。

\*穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

## 〔6月19日現在の生育状況〕

- 作物研究センター（長岡市）で5月1日までに植えた「なつひめ」では、既に幼穂形成期に達しています。  
※幼穂形成期：6月15日（4月21日植え）、6月18日（5月1日植え）  
→ 県内で同時期に植えたほ場では、幼穂形成期に達しているの見込まれます。

## 〔今後の管理〕

- 「なつひめ」の栽培においては、収量等を確保するため、出穂期まで葉色を適切に維持することが重要です。
- 適期に穂肥を施用するとともに、適切な水管理と病虫害防除を行いましょう。

### 穂肥施用と水管理

- 収量を確保するために、すでに幼穂形成期となっているほ場については、速やかに1回目の穂肥を施用しましょう。
- 幼穂形成期となっていないほ場についても、幼穂を確認の上、遅れないように1回目の穂肥を施用しましょう。

<穂肥の施用時期と施肥量（窒素成分）のめやす>

1回目：出穂期25～23日前（幼穂形成期）、2kg/10a

2回目：出穂期14日前、1～2kg/10a

- 出穂前は稲体の活力が低下しないよう、飽水管理を徹底しましょう。

### 病虫害防除

- いもち病の発生を確認した場合は、薬剤防除をしましょう。
- 斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、畦畔・農道等の草刈りや水田内の除草を行いましょう。
- 出穂が早いため、斑点米カメムシ類の薬剤防除を遅れないよう行う必要があります。必ず出穂期を確認し、薬剤ごとの適期に防除を行いましょう。

### 熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 梅雨時期の穂肥散布となるため、農作業中は熱中症予防対策を必ず行いましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめにとるなど、十分配慮してください。